

日本精線

超高強度・ステンレス鋼線開発

医療機器向けなど開拓

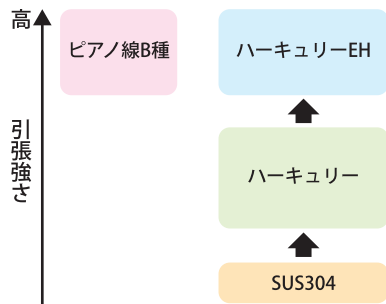
ステンレス鋼線のトップメーカー、日本精線（本社・大阪市中央区、社長・新貝元氏）は、超高強度・ステンレス鋼線「ハーキュリーEH（Extra Hard）」の写真を開発し、需要の見込める線径0.10〜0.35ミリの量産体制を確立

した。現行材の「ハーキュリー」は高強度かつ耐食性を要求される用途にて使用され、市場に広く認知されている。近年、電子部品・車載情報機器・医療機器の大幅な小型化が進んでおり、素材のワイヤー

技術を駆使し、加工誘起マルテンサイトの生成量を緻密にコントロール

たトータルコストで競争力がある」（同社）という。「ハーキュリーEH」は「ハーキュリー」では強度特性を満たせなかったアイテムやピアノ線B種で耐食性が不足するアイテム、あるいは熱負荷時にばねのへたり（形状変化）が問題となるようなアイテムへの展開を狙う。すでに限定ユーザーによるサンプル評価を実施済みで、「荷重特性やへたりに性において優れた結果が得られている」（同）と説明。

し、順次適用範囲を広げる計画。既存材の「ハーキュリー」とは



高強度化のニーズが急増。こうした背景を踏まえ、同社は準安定型オーステナイト系ステンレス鋼に属する「ハーキュリー」に、同社の高度な加工

ールすること、ピアノ線B種並の引張強さを実現。「コストはピアノ線と比べ、防錆処理などの後処理を含め

同社は今後、「ハーキュリーEH」の本格的な受注対応を開始

区別して販売する。用途および要求特性に応じて使い分け、国内市場だけでなく海外市場

も視野に差別化を図れる需要を積極的に開拓する考えだ。